

課題の分類：												
ばれいしょ新品種候補												
「F001」の概要												
北海道立中央・上川・道南・十勝・北見農業試験場 独立行政法人北海道農業研究センター 北海道種馬鈴しょ協議会												
1. 特性一覧表												
系統名	ばれいしょ「F001」		交配組合せ		87062-217 × Maris Bard ホクレン農業協同組合連合会農業総合研究所が 育成し、平成12年から14年に各種試験を行った。							
特性	長所					短所						
	1) 目が浅く、大粒・多収である。					1) 塊茎腐敗抵抗性が“ごく弱”である。						
	2) ポテトサラダ適性が「男爵薯」より優れる。											
3) ジャガイモシストセンチュウ抵抗性である。												
採用予定県及び普及見込み面積 北海道 150 ha												
調査地		北見農試				中央農試		上川農試		十勝農試		
調査年次		平成12～14年				平成12～14年		平成12～14年		平成12～14年		
系統・品種名		F001	男爵薯 (対照)	さやか (比較)	農林1号 (比較)	F001	男爵薯 (対照)	F001	男爵薯 (対照)	F001	男爵薯 (対照)	
項目												
早晩性		中晩生	早生	中生	中晩生							
終花期の茎長(cm)		63	32	54	62	71	37	71	69	79	39	
枯凋期 (月日)		9/30	9/ 2	9/26	10/3	9/14	8/20	9/15	8/20	9/20	8/29	
上いも数 (個/株)		9.1	10.1	8.9	9.5	12.3	13.2	12.3	13.3	9.5	11.6	
上いも平均一個重 (g)		133	84	113	122	101	76	105	79	130	75	
中以上いも重(kg/10a)		5,259	3,285	4,419	5,057	4,571	3,476	4,978	3,686	4,936	3,237	
対標準比 (%)		160	100	135	154	131	100	135	100	152	100	
上いも重 (kg/10a)		5,579	3,905	4,670	5,282	5,294	4,391	5,615	4,607	5,239	3,883	
対標準比 (%)		143	100	120	135	121	100	122	100	135	100	
でん粉価 (%)		16.9	16.3	16.9	18.8	14.8	14.0	14.0	13.6	16.0	14.5	
塊茎の特性												
形		偏球	球	卵	偏球							
皮色		黄褐	白黄	白	白黄							
肉色		淡黄	白	白	白							
目の深さ		浅	深	浅	中							
休眠期間		やや長	やや長	やや長	やや短							
褐色心腐の多少*		微	微	微(無)	少							
中心空洞の多少*		微	微(少)	無	微							
二次生長の多少*		少	微	微(無)	微(無)							
病虫害抵抗性**												
ジャガイモシストセンチュウ		強(H1)	弱(h)	強(H1)	弱(h)							
疫病圃場抵抗性		弱	弱	やや弱	弱							
塊茎腐敗		ごく弱	弱	やや強	中							
Yモザイク病		弱	弱	弱	中							
そうか病		やや弱	弱	弱	弱							
調理特性*												
煮崩れ		中	中	少	(少)							
調理後黒変		微	中(少)	微(少)	(中)							

* 各農試の試験結果による。括弧内はばれいしょ種苗特性分類調査報告書(昭和56年)の分類による。

** 特性検定試験の成績による。*** 色～総合は、男爵薯を0として-2(劣る)～+2(優る)で評価。

**** ケンコーマヨネーズ(株)による総合評価で、1(悪い)～5(良い)。

2. ばれいしょ「F001」の特記すべき特徴

ばれいしょ「F001」は、中晩生で肉色が淡黄色の生食用系統で、「男爵薯」よりポテトサラダ適性が優れ、目が浅く、大粒・多収である。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ。

3. 奨励品種に採用しようとする理由

生食用ばれいしょの消費は外食・調理済み食品・一次加工品等の業務需要が急増し、適品種の要求が強い。従来これらの用途では、北海道で栽培面積が多く、安定供給が可能な「男爵薯」が多くを占めていたが、目が深く加工歩留りが低い、剥皮後の褐変や調理後の黒変が起こりやすい等の欠点があった。これらの欠点を補って近年奨励品種となった、ホールポテト向けの「マチルダ」（平成5年）、コロッケ向けの「ベニアカリ」（平成6年）、白肉・大粒で各種調理に向く「さやか」（平成7年）が栽培面積を増やしており、調理の多様化に対応した適品種の要望は今後も強まると考えられる。

「F001」は、「農林1号」並の枯凋期中晩生で、「男爵薯」、「農林1号」及び「さやか」より大粒・多収である。ポテトサラダ用原料の主力品種である目の浅い「トヨシロ」や、目の深い「男爵薯」と比べ、ポテトサラダ製造時の歩留りは高く、「さやか」並に優れる。ポテトサラダの官能評価では色や食感の評価が高く、総合的にポテトサラダ適性が優れる。「トヨシロ」、「男爵薯」や「さやか」と違い「F001」は肉色が淡黄色であるが、同じ淡黄色である「キタアカリ」（昭和62年）の普及によって黄肉色ばれいしょの需要は広がってきており、「F001」の肉色を生かした商品開発が期待できる。また、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持っており、汚染圃場のシストセンチュウ密度を低下させることが可能である。

以上のことから、「F001」をポテトサラダ向けとして用いられている「男爵薯」の一部に置き換えることにより、高品質原料の安定供給が可能となり、道産ばれいしょの振興に寄与することができる。

4. 普及見込み地帯

北海道 150 ha

5. 栽培上の注意

- 1) 塊茎の腐敗が発生することがあるので、排水不良な圃場での栽培は避ける。
- 2) 疫病に弱いので、予察情報などを活用し、適正な防除に努める。
- 3) 中心空洞の発生することがあるので、多肥や疎植を避け、培土や収穫時期に留意する。